

# 1 . 事業の目的及び概要

## ( 1 ) 事業の目的

- 国道 6 号の交通渋滞の緩和
- 沿道環境の改善

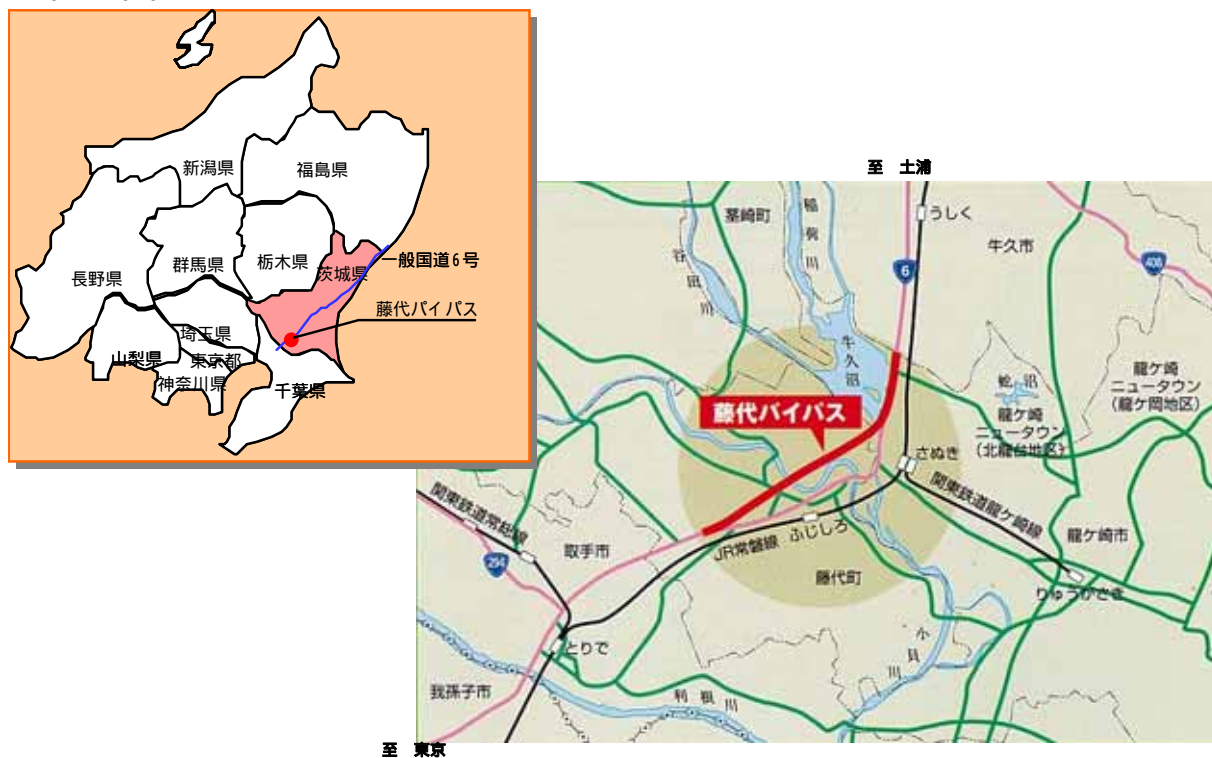
国道 6 号は東京都中央区日本橋とうきょうとちゅうおうく にほんばしから宮城県仙台市みやぎけん せんだいしに至る延長約 370 km の主要な幹線道路です。

一般国道 6 号が通過取手市とりで龍ヶ崎市りゅうがさきは、都心から 50 km 圏内に位置し、東京への通勤圏として開発が進み、それに伴い交通量が増加しています。

特に取手市とりで（旧藤代町ふじしろまち）付近では交通渋滞が慢性化し、沿道環境の悪化が進んでいたため、早期改善が期待されていました。

藤代バイパスは、一般国道 6 号の茨城県取手市（計画時は北相馬郡藤代町きたそうまぐん）酒詰さかづめから龍ヶ崎市庄兵衛新田町りゅうがさきしようべいしんでんまちまでの延長約 6.1 km（現道拡幅を含む）の道路であり、交通渋滞の緩和、沿道環境の改善及び地域社会の産業振興に寄与することを目的に計画され、昭和 55 年度から事業を開始しました。

## 位置図

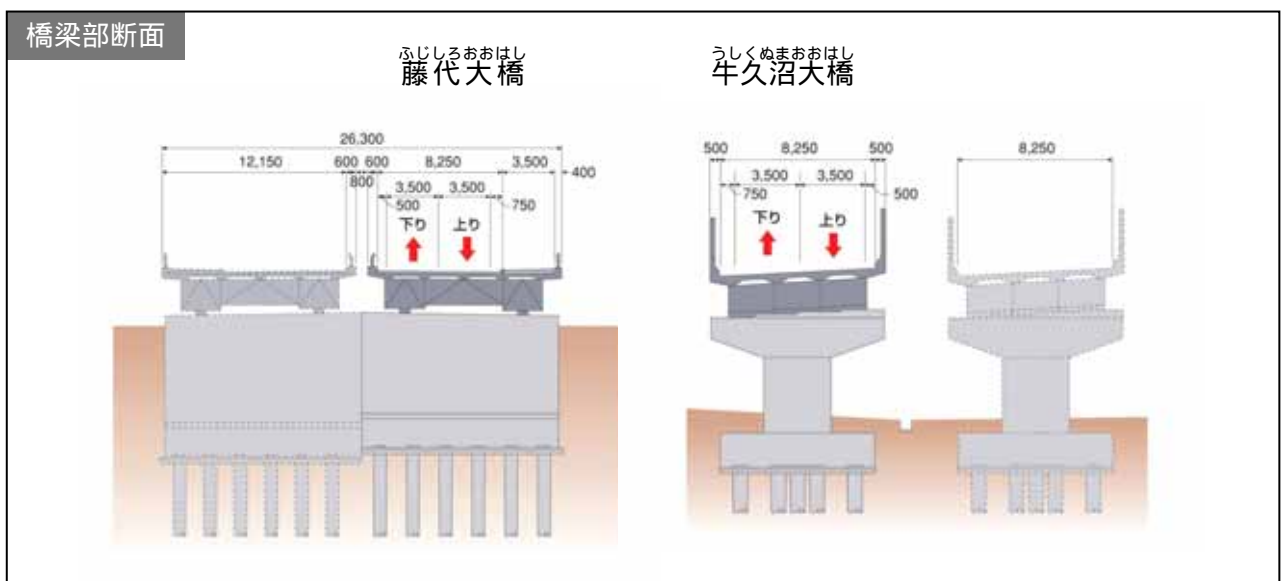
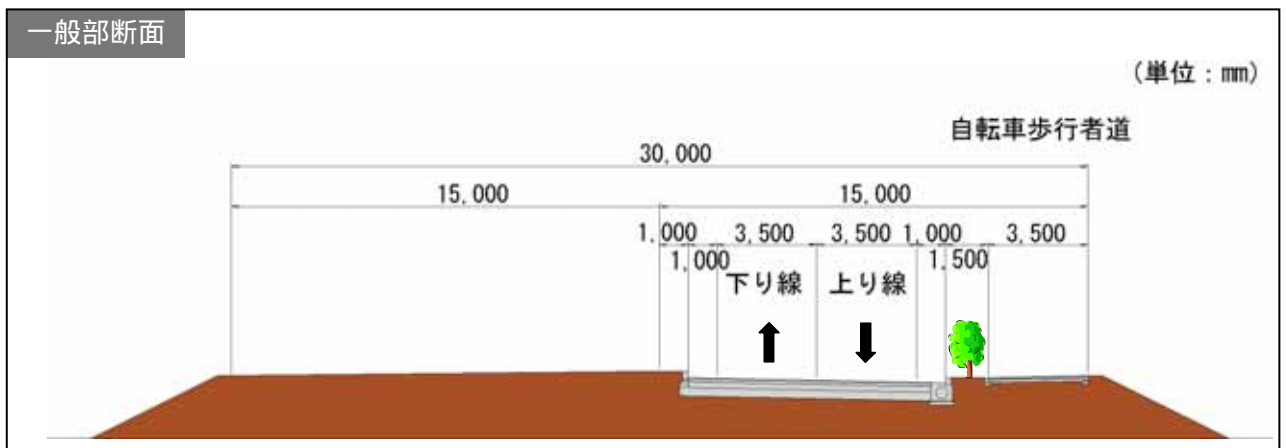


(2) 事業の概要

- 区 間 : 自) 茨城県取手市酒詰地先  
いばらきけんとりでししきかづめ  
 至) 茨城県龍ヶ崎市庄兵衛新田町地先  
いばらきけんりゅうがさきししょうべいしんでんまち
- 計画延長 : L = 6.14 km
- 幅 員 : W = 30 m
- 道路規格 : 第3種第1級 設計速度 80 km/h
- 車 線 数 : 4車線 (暫定2車線)
- 事業費 : 約512億円 (約402億円)  
 (うち用地費 約156億円)

標準断面図 (m)

暫定2車線整備後 (藤代バイパス)



## (2) 事業の経緯

|                  |   |
|------------------|---|
| 昭和 55 年 6 月      | 都市計画決定  |
| 昭和 55 年度         | 事業化   |
| 昭和 56 年度         | 用地着手  |
| 昭和 61 年度         | 工事着手  |
| 平成 4 年 9 月 9 日   | 竜ヶ崎立体開通   |
| 平成 5 年 11 月 30 日 | 藤代町小浮気～藤代町藤代間<br>延長約 1.3km 暫定 2 車線開通                              |
| 平成 13 年 3 月 29 日 | 藤代町藤代～龍ヶ崎市佐貫間<br>延長約 2.6km 暫定 2 車線開通                              |
| 平成 17 年 3 月 20 日 | 藤代町新川～龍ヶ崎市庄兵衛新田町間<br>延長約 1.4km 暫定 2 車線開通<br>延長約 6.1km 全線暫定 2 車線開通 |

平面図



写真：取手市側より龍ヶ崎市を望む



写真：土浦市側より取手市を望む



写真：土浦市側より取手市を望む

# 所要時間短縮の効果

## 国道6号藤代バイパスで

国道6号藤代バイパスの暫定開通から一年が経過したことが、国土交通省首都国道工事事務所はこのほど、開通前後の交通量調査を実施比較し、整備効果などについて明らかにした。

同工事事務所の報告によると、龍ヶ崎ニュータウン入り口付近から取手駅周辺まで、上り方面の朝ピーク時の所要時間は開通前と比較すると、最大で四十八分短縮した。藤代駅や佐貫駅周辺の市街地を通過する国道6号の渋滞も全て解消している。交通量の減少に伴い、騒音・振動などの沿道環境や歩行者の安全性が向上したと、住民の評価は高い。

また、渋滞に伴う時間損失がなくなり、開通前後の総歩行時間費用を計算すると、年間約三十二億円の経済効果が発生しているという。

同バイパスは、国道6号の藤代町酒詰から龍ヶ崎市庄兵衛新田までの延長六・一四キロの四車線道路



渋滞解消の役目を担う国道6号藤代バイパス＝藤代町小浮気交差点付近

国交省調査

路、東京通勤圏として近年は市街化の開発やそれに伴う交通量増加、沿道環境の悪化など、改善を求めざるを得なかったことから、一九八〇年から事業を開始した。昨年三月には藤代町藤代から龍ヶ崎市佐貫の二・六キロ部分が開通し、既に使われている龍ヶ崎立体部分などと合わせて活用されている。

今後の事業予定としては、牛久沼大橋（仮称）の整備を進め、龍ヶ崎市の八間堰交差点を立体化し、スムーズな交通の流れを確保していきたいとしている。さらに、同バ

常陽新聞（平成 14 年 4 月 6 日）

### 着実な整備効果を確認

大橋が完成（05年3月20日）して一年が経過。国土交通省関東地方整備局首都国道事務所がこのほど実施した交通実態調査の結果、八間堰交差点周辺の渋滞による損失が9割解消、牛久沼大橋の開通により年間24・7万時間（約8億円）の整備効果が確認された。また、交通状況が改善したことにより、自動車から排出される二酸化炭素も大幅に低減、CO<sub>2</sub>削減量は約1,000t、CO<sub>2</sub>年で、森林面積約103公頃（白比谷公園約6個分）の二酸化炭素吸収量に相当する。

### 2.9 km 渋滞解消

首都国道・国道6号の開通効果

3月に開通した国道6号藤代バイパス牛久沼大橋約546mの交通実態調査を実施し、交通状況の変化をまとめた。結果では八間堰交差点を先頭に発生していた最大渋滞長約2900m（通過時間約24分）の渋滞が解消されたほか、CO<sub>2</sub>の排出量が約2%削減されるなどの効果が明らかになった。

### 牛久沼大橋が開通 藤代B.P.全線整備



国道6号藤代バイパス「牛久沼大橋」の開通式が二十日、藤代町新川の現地で行われ、国土交通省関東地方整備局の竹村昌幸副局長や串田武久龍ヶ崎市長、小林靖男藤代町長、地権者ら約八十人が出席した。今回、新たに藤代町新川、龍ヶ崎市の八間堰交差点、藤代バイパスは、今回、四ヶ所、うち牛久沼大橋五百四十六メートルの工事が完了し、同町酒詰と同市庄兵衛新田町を結ぶ全線六・一四キロの幹線道路が整備された。

式では、竹村副局長のあいさつに続き、葉梨康弘、小泉俊明両衆院議員が祝辞を述べ、坂入健児土木部長が橋本昌知事の祝辞を代読した。テープカットの後、龍ヶ崎市立西中学校のブラスバンド部の演奏で渡り初めのパレードが行われ、午後三時から供用開始された。藤代バイパスは一九八〇年、整備に着手。区間に二〇〇二年三月までに同町酒詰―同市佐貫町の八間堰交差点間（四・四二キロ）を開通した。牛久沼大橋は〇二年に事業開始。八間堰交差点付近の渋滞の緩和が期待される。事業費は約七十億円。今後、藤代バイパスは全線で四車線化される。

茨城新聞（平成 17 年 3 月 21 日）

建設産業新聞（平成 17 年 8 月 1 日）

建設産業新聞（平成 18 年 6 月 1 日）